



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2009推進ニュース

—介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

取り組みを具体化し12月末までに500,000筆の署名を集め介護改善要求を国会に届けよう！

「第1回介護活動交流集会」を開催！310人が参加(埼玉)

「今まで知らなかった施設でのサービス提供の工夫やとりくみが理解できた」



11月29日(日)『埼玉民医連第1回介護活動交流集会』が開催されました。交流集会には2病院、2老健、3診療所、18介護事業所、岡本常務理事の計310名が参加し、大成功裏に介護活動交流集会は終了しました。山川明美実行委員長の「埼玉民医連の介護事業の発展のスタートとしたい」のあいさつに始まり、午前の全体会で、東京・健和会の「看護介護政策研究所」所長の宮崎和加子氏より『地域になくてはならない医療・介護問われる専門性と連携』をテーマに学習講演。午後は5つの分散会での演題発表となりました。

講演で宮崎氏は、「介護・看護に垣根はない。それぞれが生活を支援している。さまざまな職種がその特性を理解し、尊重しあって連携してこそ、利用者にとって最良の支援となる。認知症の方を特別扱いせず、すべて同じ支援をする」等の話をされ、参加者に納得と共感を呼ぶものとなりました。参加者から「明日からのケアに活かしたい」「話されたことを少しづつでも取り入れていきたい」の声が寄せられました。

午後の分散会では、在宅サービス、施設サービスの64演題が発表され交流しました。参加者から、「今まで知らなかった施設でのサービス提供の工夫やとりくみが理解できた」「退所した利用者様の在宅でどのようにサービスを受けている(フォローされている)かが理解できた」等の声が寄せられました。施設介護と在宅介護がそれぞれの立場を学び、理解しあうことで埼玉民医連の介護事業がさらに発展することを確信する場となりました。

閉会あいさつで老健さんとめの山口さんは、「のこり1ヶ月となった介護ウェーブについてもとりくみの輪をさらに広げましょう」と提起し、その上で、「この思いを明日からの業務に活かしましょう」と結びました。

本交流集会は、今年度、県連理事会の下に設置された「県連介護活動委員会」と各事業から選出された「介護活動交流集会実行委員会」の主催によるものです。この間、「ホームヘルパー活動交流集会」(03年から)や「ケアマネージャー全県事例検討会議」(05年から)、さらに、「みぬま学会」「さんとめ運動交流集会」は開催されていましたが、介護に関する職員が一堂に会しての交流集会は初めてのものです。 (さいたま介護ウェーブ2009推進ニュース No.19 2009.12.5より)

「第3回介護保険と介護労働を考えつどい」を開催！「介護保険制度10年目の検証」を行う(神奈川)

11月22日(日)神奈川県薬事保健センターにおいて約130名の介護事業に携る人、介護サービスを受ける人が集まり、介護保険制度10年目の検証を行いました。神奈川民医連からは京町包括支援センター(川医協)所長の高橋靖明さんがシンポジストとして、いま地域で起こっている現象と制度の矛盾点を明確にし介護保険制度の改善を訴えました。(介護ウェーブニュース神奈川No27 2009年11月26日より)



お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp